

## ◎小児訪問看護医療的ケア児のリハビリテーション

講師 訪問看護ステーション紫原サテライトうすき PT 川上知子

### 【小児リハビリテーションの特徴】

- ① 小児は成人と比べて身体のすべてが小さく脆弱であり、触り方や動かし方が難しく、細心の注意を要する。
- ② こちらが指示したように動いてくれることは少なく、目的とした練習がうまく進まないこともある。
- ③ 利用者本人のみならず、両親との関係に配慮しなければならない。
- ④ 関係職種が多い。連携先が多い。

### 【訪問開始時の着眼点】

- ・ その子が布団の上で落ち着いて過ごしているか。
- ・ 全身の筋緊張の確認
- ・ 筋緊張の異常により落ち着かない子に対して、家庭にあるものでポジショニングの提案を行う。
- ・ 抱っこの指導
- ・ 四肢の可動域制限があるか？
- ・ 緊張によって四肢を十分に動かせないなど、動きが乏しい子には、母が隙間時間に行える赤ちゃん体操の指導。（簡単にできる内容で短時間でできる体操）  
→ 機嫌がいい時、母に余裕がある時に行ってもらおう。母に余裕がない場合は無理をさせないように、訪看の回数を増やし、看護師やセラピストで実施する。
- ・ 母や家族の体調確認。自宅での状況（家事が行えているか）等訪問時にチェックする。
- ・ この時期には、母の不安も強く、夜泣きや体調の変動で疲労が蓄積している時は、PT やNs の介入回数を増やす等して対応する。
- ・ 母や家族の体調や、兄弟児との時間が取れているか確認をし、必要によっては看護師とリハで長時間介入も行う。